

「ニッポン高度紙 溝渕と申します」

ニッポン高度紙工業株式会社

管理部総務課課長 溝渕 安隆



この夏開催された東京オリンピック・パラリンピック、新型コロナ禍ではありましたが、それに関係なくあるいはいつも以上にアスリートの皆さんの活躍や頑張りに元気と感動をいただきました。一方、新型コロナに関しては第5波に及び、罹患によって苦しまれた方やひっ迫する医療により大変ご苦労された医療分野・行政分野のお話も様々なニュースでお伺いしました。開催前・中において、世の中では今回のオリンピック・パラリンピック開催について賛否両論ありましたが、最近ではあまり耳にすることがなくなったように感じます。人類にとっては初めての経験であり、どんな方策をとってもいい面悪い面が生じます。反対意見は大事ですが、一度やると決めたらみんなが一丸となって取り組むことと、その結果を検証し次につなげることが大事だと考えます。第6波や北京・パリ開催オリンピック・パラリンピックに今回の経験が生かされることを願ってやみません。

さて前置きが長くなりましたが、このような機会をいただき大変感謝しております。私が所属する会社と自身についての紹介をさせていただきます。

私の所属するニッポン高度紙工業株式会社は高知市春野町に本社を置き、高知県に3カ所、鳥取県に1カ所事業所を構え、今年設立80周年を迎えた特殊紙のメーカーです。コンデンサーと呼ばれる電子部品や電池に組み込まれている部品である紙を生産しています。ルーツは高知の伝統産品土佐和紙です。設立当時、土佐和紙は欧米に多く輸出されておりましたが、第2次世界大戦下輸出が出来なくなり、土佐和紙の新たな用途を探すために産学連携で生まれたのが当社です。現在、脱プラが叫ば

れており紙素材への展開が一つの方策として注目されておりますが、80年前に木綿（これも戦時下輸入できなくなり不足していました）の代用品として“濡れても破れない紙”を開発したのが当社のはじまりです。それから応用開発を繰り返し、現在の電子部品としての紙に生まれ変わりました。現在は、日進月歩で進化しているエレクトロニクス業界において、当社も新しい製品を出し続けていけるよう日々努力しております。

私はこの会社で、人事業務に20年、経理業務5年携わってまいりました。これまでの社会人生活を振り返り、あらためて様々な方との出会いへの感謝を実感いたします。いくつか紹介すると、まず入社して間もない頃、全国からいい人材を採用するために高知県の企業がタッグを組んで活動していましたが、その中で当会川村代表幹事をはじめ様々な業種の方とともに学生さんに対しての就職やインターンシップに関する勉強会などに取り組みました。協力し合うことの大切さや世の中のためになることが自社の利益にもなるという考え方などは、今の自分の軸の大きな部分を占めていると思います。それから海外との接点が自分の考え方を広げた経験でした。当社はこれまでマレーシア・中国・フィリピンに子会社・関連会社がありました。他民族国家でありまた多くがイスラム教を信奉するマレーシア、会社の重職が全員女性であったフィリピンの子会社など様々な気づきがあり、随分世界の味方が変わったように感じました。

今後も当会をはじめ様々な方から指導いただき、その恩を少しでも返していければと考えておりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。